



↑舟頭さんが福島で立ち往生していたころ、私は新潟県十日町市にいた。積雪2m。雪に埋もれて人々はいつものように、いつもの暮らしをしていた。テレビが騒ぐほど騒いではいなかった。

→風は冷たい。陽差しは暖かい。この時期、ロシアでは“光の春”というらしい。春は着実に近づいて来ている。どこかで音が聞こえる、ンズンと。だんだん光が暖かさを運んで来る。ひと雪ごとに、ひと雨ごとに…………。



人は、なんのために旅をするのだろうか？

平安時代の末期には、熊野詣でが流行った。江戸時代には大山詣でやお伊勢参りに人気があった。

現代では、交通手段の発達で旅の私たちも様々になった。たとえば、こんな言葉があるかどうか知らないが、ヨンさま詣で、などという笑うに笑えないような旅まである。

矢切の渡しの舟頭さんも旅好きだ。冬場、渡し舟は土日祝祭日しか営業しない。三月中旬まで週休五日が続く。せんだって舟頭さんは、ぶらりと青森まで開通したばかりの東北新幹線に乗って旅に出た。

乗った新幹線は運悪く大雪その他の原因で福島県内で立ち往生した。

「二時間だったっけ？ 特急料金の払い戻しぎりぎり動いたから、止まり損だった」

舟頭さんの旅は行く宛てのない旅が多いという。

青春十八切符を利用して電車に飛び乗る。終点まで行って降りる。

## 今週のクマ

→クマは自分のおいたちを書いたパンフレットのおかげで、渡しに乗ってきた客にもてる。だからといって人のように、自慢気でもないし、おごったところがない。それより、餌をくれる人のほうを喜ぶ。メタボをクマは気にしない。



→バブル崩壊のころほどではないが、矢切にはいまま生き物を捨てる人がいる。代表が猫だ。その捨て猫に餌を運ぶ人がいる。親切なのだろうか？ そんな行為が…。



はたして空き部屋はあるか。泊めても  
らえるだろうか。そんな、ちよつとした  
緊張感がいいのだという。

一日目は青森市内に泊まった。翌日は  
大湊線に乗ろうと思ったが、雪と風で運  
休。代替バスだと聞いて、あきらめた。

そこで予定を変更。北海道に渡ること  
にした。電車に飛び乗った。青函トンネル  
をくぐり、函館からさらに足を延ばして  
木古内で下車し、温泉にはいった。

ひなびた温泉だった。客はほかにだれ  
もいなかった。それだけ人気の温泉地  
はなかった。そこが舟頭さんにはよかつ  
た。泊まりは引き返して函館だった。

「なにか美味しい物を食べた？」

当然、だれでも名物だとか郷土料理だ  
とか食べるはずだ、という先入観で質問  
をした。すると、舟頭さんはいった。

「イカ刺で飯を食ったただけだよ」

まああいいだろう。函館でイカを食つ  
たのだから。先入観は当たりだ。

青森の“のつけ井”は食べなかつた。

あんな売らんかなの料理なんか食べるも  
のか、という。旅にもいろいろある。旅  
そのものを楽しむものと、なにか代替物  
を得ようとする旅だ。

あなたはどんな旅……？